みずほマーケット・トピック（2018 年 8 月 31 日）

週末版

内容　1．為替相場の動向　2．来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが「3．本日のトピック」はお休みです。本日発行の『中期為替相場見通し』をご参照下さいませ。

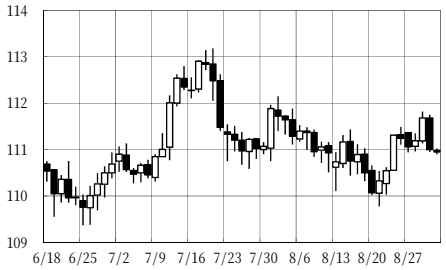
1．為替相場の動向（関連レポート：「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」）

- 今週のドル/円相場は上に往って来いの展開となった。週初 27 日に 111 円台前半でオープンしたドル/円は、先週行われた米中通商協議で具体的な進展がなかったことや、トランプ米大統領が北朝鮮との非核化協議の停滞を理由に米国務長官の訪朝中止を指示したことなどを受けて 111 円を割り込んだ。しかし、「米国とメキシコが北米自由貿易協定（NAFTA）再交渉で一部合意、米国はカナダとの協議も再開する方針」と報じられると加ドル/円が上昇し、ドル/円は 111 円台前半まで連れ高となった。28 日は貿易摩擦に対する警戒感が和らいだことを受けて続伸。イタリアの 2019 年予算が EU の定める財政基準に抵触するとの懸念が後退すると、対ユーロを中心にドル売りの流れになり、一時は 111 円を切る場面も見られたが、米 8 月消費者信頼感が 2000 年 10 月以来の高水準になると 111 円台前半まで直ぐに値を戻した。29 日は英 EU 離脱交渉で EU 主席交渉官を務めるバルニエ氏の「前例のない特例的な提携関係を英国に提案する用意がある」との発言を手がかりにユーロとポンドが買われクロス円も上昇する展開にドル/円は週高値となる 111.83 円をつけた。30 日は「トランプ大統領が来週にも 2000 億ドルの対中関税発動を支持」との報道を受けてリスクオフの動きが強まると 111 円近辺まで急落。本日のドル/円は 110 円台後半で週安値を更新している。
- 今週のユーロ/ドル相場は底堅く推移した。週初 27 日に 1.16 台前半でオープンしたユーロ/ドルは週安値となる 1.1595 をつけたが、独 8 月 IFO 企業景況感指数が予想以上に良好な結果となったことから 1.16 台後半まで値を上げた。28 日はトリア伊財務長官が「イタリア政府は EU 財政赤字制限（GDP 比▲3%）を破るつもりはない」と述べると 1.17 を上抜け一時週高値となる 1.1734 をつけたが、米経済指標の良好な結果を受けてドル買い優勢地合いとなり 1.16 台後半まで反落した。29 日は「イタリア政府が ECB に新たな国債購入プログラムを要請する可能性がある」と報じられ 1.16 台半ばまで下落したが、これは後に否定された上、EU 主席交渉官のバルニエ氏の発言を受けて英国の合意なきブレグジットに対する懸念が後退するとユーロ買い優勢となり 1.17 台前半まで反発した。30 日はバルニエ氏が「英国の合意なきブレグジットは依然あり得る」と発言すると 1.16 台前半まで下落し、本日のユーロ/ドルは 1.16 台半ば近辺で推移している。

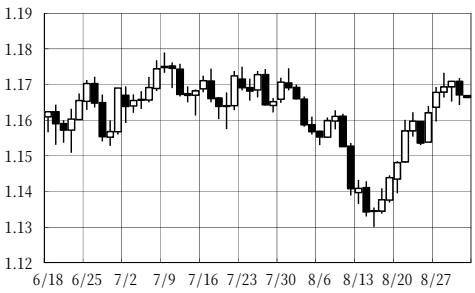
今週のおもな金融市場動向（出所：ブルームバーグ、みずほ銀行）

		前週末	今週			
		8/24(Fri)	8/27(Mon)	8/28(Tue)	8/29(Wed)	8/30(Thu)
ドル/円	東京9:00	111.37	111.29	111.14	111.15	111.69
	High	111.49	111.38	111.35	111.83	111.75
	Low	111.10	110.94	110.95	111.12	110.95
	NY 17:00	111.24	111.06	111.19	111.68	111.00
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1542	1.1646	1.1685	1.1693	1.1710
	High	1.1639	1.1693	1.1734	1.1710	1.1718
	Low	1.1535	1.1595	1.1663	1.1652	1.1642
	NY 17:00	1.1621	1.1678	1.1694	1.1709	1.1671
ユーロ/円	東京9:00	128.52	129.60	129.85	129.95	130.78
	High	129.40	129.83	130.26	130.85	130.87
	Low	128.47	128.80	129.70	129.59	129.42
	NY 17:00	129.30	129.74	130.00	130.76	129.53
日経平均株価		22,601.77	22,799.64	22,813.47	22,848.22	22,869.50
TOPIX		1,709.20	1,728.95	1,731.63	1,739.60	1,739.14
NYダウ工業株30種平均		25,790.35	26,049.64	26,064.02	26,124.57	25,986.92
NASDAQ		7,945.98	8,017.90	8,030.04	8,109.69	8,088.36
日本10年債		0.10%	0.10%	0.10%	0.10%	0.11%
米国10年債		2.81%	2.85%	2.88%	2.88%	2.86%
原油価格（WTI）		68.72	68.87	68.53	69.51	70.25
金（NY）		1,205.90	1,211.37	1,200.95	1,206.65	1,199.96

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

・来週、米国では 9 月 4 日（火）に 8 月 ISM 製造業景気指数の発表が予定されている。各地区連銀の製造業指数を確認すると、NY 連銀製造業指数およびフィラデルフィア連銀指数はまちまちの結果となる中、8 月の ISM 製造業景気指数は 57.6 と 7 月の 58.1 から低下すると予想されている。また、7 日（金）には 8 月雇用統計の発表があり、非農業部門雇用者数（NFP）は前月比+19.1 万人（7 月：同+15.7 万人）と予想されている。関連指標を確認すると、週次の失業保険統計では、雇用統計調査週（12 日を含む週）の新規失業保険申請件数は低下傾向を続けているが、ニューヨーク連銀およびフィラデルフィア連銀で発表された 8 月製造業景気指数の雇用 DI は 2 か月連続で悪化している。失業率に関しては 3.9%と前月から横ばいとなり、週平均労働時間も 34.5 時間と横ばいが見込まれている。注目が集まる時間当たり平均賃金は前月比+0.3%と伸び率は前月から横ばいとなる見通しだ。

・金融政策関連では、3 日（月）にエバンス・シカゴ連銀総裁の講演が行われるほか、5 日（水）にはカシュカリ・ミネアポリス連銀総裁の講演がある。また、6 日（木）にウィリアムズ NY 連銀総裁、7 日（金）にはローゼングレン・ボストン連銀総裁、メスター・クリーブランド連銀総裁およびカプラン・ダラス連銀総裁の講演が相次いで予定されている。

	本　　邦	海　　外
8 月 31 日（金）	・7 月新築住宅着工件数	・ユーロ圏 7 月失業率 ・ユーロ圏 8 月消費者物価指数（速報） ・米 8 月ミシガン大学消費者マインド指数（確報）
9 月 3 日（月）	・8 月自動車販売台数	・ユーロ圏 8 月製造業 PMI（確報）
4 日（火）	・8 月マネタリーベース	・米 7 月建設支出 ・米 8 月 ISM 製造業景気指数
5 日（水）	―――――――――――――	・ユーロ圏 8 月サービス業 PMI（確報） ・米 7 月貿易収支
6 日（木）	―――――――――――――	・独 7 月製造業受注 ・米 8 月 ADP 雇用統計 ・米 7 月製造業受注 ・米 7 月耐久財受注（確報）
7 日（金）	・7 月毎月勤労時計 ・7 月景気動向指数（速報）	・独 7 月貿易収支 ・独 7 月鉱工業生産 ・ユーロ圏 4～6 月期 GDP（確報） ・米 8 月雇用統計

【当面の主要行事日程（2018 年 9 月～）】

米 FOMC(9 月 25～26 日、11 月 7～8 日、12 月 18～19 日)
ECB 政策理事会（9 月 13 日、10 月 25 日、12 月 13 日）
日銀金融政策決定会合（9 月 18～19 日、10 月 30～31 日、12 月 19～20 日）
日米首脳会談（9 月下旬に開催予定）、日米貿易協議（FFR、日米首脳会談前に開催予定）

国際為替部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌　大輔（TEL：03-3242-7065）
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

経済指標カレンダー（2018年8月）

月	火	水	木	金	週末
		1 日本　自動車販売台数（7月） ユーロ圏　製造業PMI（確報、7月） 米国　ADP雇用統計（7月） 米国　建設支出（6月） 米国　ISM製造業景気指数（7月）	**2** 日本　マネタリーベース（7月） 米国　製造業受注（確報、6月） 米国　耐久財受注（確報、6月）	**3** ユーロ圏　サービス業PMI（確報、7月） 米国　雇用統計（7月） 米国　貿易収支（6月） 米国　失業率（7月）	
6 ドイツ　製造業受注（6月）	**7** 日本　毎月勤労統計（6月） 日本　景気動向指数（速報、6月） ドイツ　貿易収支（6月） ドイツ　鉱工業生産（6月） 米国　消費者信用残高（6月）	**8** 日本　貸出・預金動向（7月） 日本　景気ウォッチャー調査（7月）	**9** 日本　マネーストック（7月） 米国　生産者物価（7月） 米国　卸売売上高（6月） ワシントン（アメリカ） 日米貿易協議	**10** 日本　国内企業物価（7月） 日本　第三次産業活動指数（6月） 日本　GDP（速報、4～6月期） 米国　消費者物価（7月） 米国　財政収支（7月）	
13	**14** 日本　鉱工業生産（確報、6月） ドイツ　GDP（速報、4～6月期） ドイツ　消費者物価（確報、7月） ユーロ圏　鉱工業生産（6月） ユーロ圏　GDP（速報、4～6月期）	**15** 米国　小売売上高（7月） 米国　ニューヨーク連銀製造業景気指数（8月） 米国　鉱工業生産（7月） 米国　企業在庫（6月） 米国　TICレポート（対外対内証券投資）（6月）	**16** 日本　貿易収支（7月） ユーロ圏　貿易収支（6月） 米国　フィラデルフィア連銀製造業景気指数（8月） 米国　住宅着工（7月）	**17** ユーロ圏　経常収支（6月） ユーロ圏　消費者物価指数（確報、7月） 米国　景気先行指数（7月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（速報、8月）	
20	**21**	**22** 米国　中古住宅販売（7月） 米国　FOMC議事要旨（7月31日～8月1日開催分）	**23** 日本　景気動向指数（確報、6月） ユーロ圏　製造業PMI（速報、8月） ユーロ圏　サービス業PMI（速報、8月） 米国　新築住宅販売（7月）	**24** 日本　全国消費者物価（7月） 日本　企業向けサービス価格（7月） ドイツ　GDP（確報、4～6月期） 米国　耐久財受注（速報、7月） 米国　製造業受注（速報、7月）	
27 ドイツ　IFO企業景況指数（8月） 米国　シカゴ連銀全米活動指数（7月）	**28** 米国　S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格（6月） 米国　消費者信頼感指数（8月）	**29** 米国　GDP（2次速報、4～6月期） 米国　個人消費（2次速報、4～6月期） 米国　PCEコアデフレーター（2次速報、4～6月期）	**30** ドイツ　消費者物価（速報、8月） 米国　個人消費・所得（7月）	**31** 日本　失業率（7月） 日本　東京都区部消費者物価（8月） 日本　鉱工業生産（速報、7月） 日本　新設住宅着工（7月） ユーロ圏　失業率（7月） ユーロ圏　消費者物価指数（速報、8月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（確報、8月） 米国　シカゴ購買部協会景気指数（8月）	

（注）*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
（資料）ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

経済指標カレンダー（2018年9月）

月	火	水	木	金	週末
3 日本　自動車販売台数（8月） ユーロ圏　製造業PMI（確報、8月）	**4** 日本　マネタリーベース（8月） 米国　建設支出（7月） 米国　ISM製造業景気指数（8月）	**5** ユーロ圏　サービス業PMI（確報、8月） 米国　貿易収支（7月）	**6** ドイツ　製造業受注（7月） 米国　ADP雇用統計（8月） 米国　耐久財受注（確報、7月） 米国　製造業受注（確報、7月）	**7** 日本　毎月勤労統計（7月） 日本　景気動向指数（速報、7月） ドイツ　貿易収支（7月） ドイツ　鉱工業生産（7月） ユーロ圏　GDP（確報、4～6月期） 米国　雇用統計（8月） 米国　失業率（8月）	
10 日本　GDP（確報、4～6月期） 日本　国際収支（7月） 日本　貸出・預金動向（8月） 日本　景気ウォッチャー調査（8月） 米国　消費者信用残高（7月）	**11** 日本　マネーストック（8月） 日本　第三次産業活動指数（7月） 米国　卸売売上高（7月）	**12** ユーロ圏　鉱工業生産（7月） 米国　生産者物価（8月） 米国　ベージュブック	**13** 日本　国内企業物価（8月） ドイツ　消費者物価（確報、8月） ユーロ圏　ECB理事会（フランクフルト） 米国　消費者物価（8月） 米国　財政収支（8月）	**14** 日本　鉱工業生産（確報、7月） ユーロ圏　貿易収支（7月） 米国　小売売上高（8月） 米国　鉱工業生産（8月） 米国　企業在庫（7月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（速報、9月）	
17 日本　敬老の日 ユーロ圏　消費者物価指数（確報、8月） 米国　ニューヨーク連銀製造業景気指数（9月）	**18** 米国　TICレポート（対外対内証券投資）（7月） 日本　金融政策決定会合（～19日）	**19** 日本　貿易収支（8月） 米国　住宅着工（8月）	**20** 米国　フィラデルフィア連銀製造業景気指数（9月） 米国　景気先行指数（8月） 米国　中古住宅販売（8月）	**21** 日本　全国消費者物価（8月） ユーロ圏　製造業PMI（速報、9月） ユーロ圏　サービス業PMI（速報、9月）	
24 日本　秋分の日 ドイツ　IFO企業景況指数（9月） 米国　シカゴ連銀全米活動指数（8月）	**25** 日本　企業向けサービス価格（8月） 日本　景気動向指数（確報、7月） 米国　S&Pコアロジックケース・シラー住宅価格（7月） 米国　消費者信頼感指数（9月） 米国　FOMC（～26日）	**26** 米国　新築住宅販売（8月）	**27** ドイツ　消費者物価（速報、9月） 米国　GDP（3次速報、4～6月期） 米国　個人消費（3次速報、4～6月期） 米国　PCEコアデフレーター（3次速報、4～6月期） 米国　耐久財受注（速報、8月） 米国　製造業受注（速報、8月）	**28** 日本　失業率（8月） 日本　東京都区部消費者物価（9月） 日本　鉱工業生産（速報、8月） 日本　新設住宅着工（8月） ユーロ圏　消費者物価指数（速報、9月） 米国　個人消費・所得（8月） 米国　ミシガン大学消費者マインド（確報、9月） 米国　シカゴ購買部協会景気指数（9月）	

（注）*を付したものは公表予定が未定であることを示す。
（資料）ブルームバーグ等より、みずほ銀行作成

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html　(Archives)　http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2018年8月29日	米国株独り勝ちをどう読むか？～BISビューに基づく抑制へ～
2018年8月28日	メインシナリオへのリスク点検～高まる欧州政治リスク～
2018年8月27日	ECB総裁か欧州委員長か～メルケル独首相の変心～
2018年8月24日	週末版
2018年8月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2018年7月分）
2018年8月17日	週末版（2018年上半期の対米資本フローの整理～色褪せる「カネ余り」、「ゴルディロックス」～）
2018年8月15日	イタリア国債利回りの急騰～もう1つの潜在的危機～
2018年8月14日	第二次資本流出局面が始まったのか？
2018年8月13日	トルコショックの真の脅威は「欧州難民危機」の再燃
2018年8月10日	週末版
2018年8月9日	ポンド安が支えるユーロ堅調～元安、トルコリラ安も～
2018年8月8日	2018年上半期の円相場の基礎的需給環境
2018年8月7日	中国の米国債売却はあり得るのか？
2018年8月6日	ソフトデータが暗示する世界経済失速
2018年8月3日	週末版（BOE利上げの正しい読み方～市場の本音は「理解に苦しむ」～）
2018年8月2日	FOMCを終えて～粛々とオーバーキルを予想～
2018年8月1日	日銀金融政策決定会合を終えて～いつまでもチャンスは無い～
2018年7月30日	メインシナリオへのリスク点検～いよいよ「伝家の宝刀」？～
2018年7月27日	週末版（ECB政策理事会を終えて～金利ガイダンスの正しい読み方～）
2018年7月26日	日銀正常化観測と日米貿易協議（FFR）の関係性
2018年7月20日	週末版（「グレートモデレーション」再来を疑う時～「保険の売り」は慢心の表れ～）
2018年7月19日	危うい「理由なきドル/円上昇」～金利・物価情勢は支持せず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2018年6月分）
2018年7月17日	貿易戦争懸念と為替市場の現状～一部市場に異変も～
2018年7月13日	週末版（「新興国市場の混乱」と「炭鉱のカナリア」～米国のクレジットスプレッドは着実に拡大中～）
2018年7月12日	ドイツ住宅市場の現状と展望～見過ごされる「バブルの芽」～
2018年7月10日	混迷を深めてきた英国のEU離脱プロセス～論点整理～
2018年7月9日	米中開戦の時～欧州も巻き込み貿易大戦の様相か？～
2018年7月6日	週末版
2018年7月5日	ECBを待ち受ける険路～「試練の秋」～
2018年7月4日	EUが迎える新たな危機～債務危機から難民危機へ
2018年7月3日	米中貿易摩擦の読み方～「返り血」は避けたい米国～
2018年7月2日	2018年上半期を終えて～予測の王道は変わらず～
2018年6月29日	週末版
2018年6月27日	メインシナリオへのリスク点検～再び先鋭化した保護主義～
2018年6月26日	またも生き残ったメイ英首相～EU離脱法案の成立～
2018年6月22日	週末版
2018年6月21日	ユーロ圏共通予算を阻むメルケル政権の危機
2018年6月20日	「ユーロ危機2.0」への警告～米国とイタリアの挟撃～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2018年5月分）
2018年6月19日	改めて整理する「中立金利との距離感」～分水嶺～
2018年6月15日	週末版（ECB政策理事会を終えて～「APPはタカ派」、「利上げはハト派」の折衷案～）
2018年6月14日	FOMCを終えて～「後ろめたさ」を抱きつつの運営に～
2018年6月13日	米朝首脳会談～市場の関心は「非核化完了」or「協議決裂」～
2018年6月12日	アベノミクス高値「125.86円」から3周年
2018年6月11日	FOMCプレビュー～テーマは「中立金利との距離感」～
2018年6月8日	週末版（外国人労働者の受け入れ拡大について～成長を望むなら～）
2018年6月7日	主要な景気先行指標の現状～世界経済の失速は露わに～
2018年6月6日	ECB政策理事会プレビュー～イタリア危機を越えて～
2018年6月5日	イタリア危機は去ったのか？～このままでは済まず～
2018年6月4日	鮮明になった「G6+1」の構図
2018年6月1日	週末版（イタリア、スペイン懸念は波及するのか～イタリア発スペイン経由南米行き？～）
2018年5月30日	17年末の本邦対外資産・負債状況～安全通貨「円」の本領～
2018年5月29日	続・イタリア政局の現状と展望～ECBが被る誤算～
2018年5月25日	週末版
2018年5月23日	イタリア政局の現状と展望～論点整理～
2018年5月22日	「双子の赤字」と整合的なドル安予想
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2018年4月分）
2018年5月21日	上がらない米インフレ期待から何を読むべきか？
2018年5月18日	週末版（続・米金利上昇の余波を受ける新興国について～金融市場は「我慢比べ」の段階に～）
2018年5月17日	軟化するユーロ相場の現状と展望について
2018年5月16日	次期NY連銀総裁の考える中立金利の在り方について
2018年5月15日	APPの総括と今後の展望～仏中銀総裁講演を受けて～
2018年5月14日	米金利上昇の「負の側面」～家計・企業・海外～
2018年5月11日	週末版
2018年5月10日	最近のユーロ圏経済の失速について
2018年5月9日	海外企業買収と円相場について
2018年5月8日	米金利上昇の余波を受ける新興国について
2018年5月2日	メインシナリオへのリスク点検～通商政策リスクは顕在～
2018年5月1日	日銀金融政策決定会合～市場は「誤解」してきたのか？～
2018年4月27日	週末版（ECB政策理事会を終えて～利上げはユーロ高との戦いに～）
2018年4月26日	米10年金利「3%」をどう解釈するか
2018年4月25日	日銀金融政策決定会合プレビュー～微修正の決断はまだ先～
2018年4月24日	ECB政策理事会プレビュー～重要決定前の露払い～
2018年4月23日	節目を迎える投機ポジション～短期目線に振らされるべからず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向（2018年3月分）
2018年4月20日	週末版（日米首脳会談を終えて～「古くて新しい問題」とライトハイザー対策～）
2018年4月18日	IMF世界経済見通しを受けて～強まった警戒色～
2018年4月17日	日米首脳会談プレビュー～見るべきポイント～
2018年4月16日	為替政策報告書の正しい読み方～論点の整理～
2018年4月13日	週末版（ECB政策理事会議事要旨を受けて～明確なユーロ高懸念～）
2018年4月12日	続・残業代規制の影響～閣議決定を受けて～
2018年4月11日	ユーロ/ドル相場の値動き分析～金利差の観点から～
2018年4月10日	為替政策報告書プレビュー～中長期的に咀嚼すべき～
2018年4月9日	円相場の基礎的需給環境～米金利上昇に頼れず～
2018年4月6日	週末版（保護主義とドル安の関係性～日本に求められる交渉戦略～）
2018年4月5日	ドイツに非はないのか～貿易戦争で考える立ち位置～
2018年4月4日	想定為替レートと実勢相場の関係について
2018年4月3日	クラウディング・アウトとLIBOR-OISスプレッド～新たな懸念～
2018年4月2日	外貨準備構成通貨の現状（17年12月末）～第二次多様化～
2018年3月30日	週末版（日米金利差「3%」はトリガーなのか～3つの注意点～）